

平成31年3月10日

日光市議会議長 斎藤伸幸様

日光市議会議員 粉川昭一

議員派遣報告書

目的 (会議等の名称)	あなたの知らない議会のチカラ
会議等の 主催者の名称	地方議員研究会
場 所	名称等：新大阪丸ビル別館 住 所：大阪府大阪市東淀川区東中島 1-18-22
期 間	平成31年2月11日（月）
会議等の内容	別紙資料のとおり
会議等の 所感・成果等	<p>元広島県庁職員で、廿日市市の副市長を務められた講師による研修会で「議員力とは」・「議会と執行部の関係」・「二元代表制の本来の在り方を目指して」の内容でした。</p> <p>議会と首長との関係では、議会は首長の追認機関であってはいけない、また、議案等に対し反対することが対立している事にはならず、政治的価値観や立場での反対は避けるべきであり、賛成する場合でも反対する場合でも、その理由を明確にする必要があります。そして議会としては議会内でしっかりと議論を重ね、議会としての意思決定と機</p>

関としての政策を決定すべきであり、そのためには、議決権・調査権・提案権をしっかりと行使する必要があります。議員個々ではなく、議会という組織でしっかりと政策マネジメントサイクルを構築し、市民と執行部とのズレを修正する役割を果たし、提案・質問・討論・議決プロセスでは、市民がどこに存在するかを意識する必要があります。

議会と執行部との関係については、戦前・戦後の市町村制度の歴史を伺い、明治には市長は市会から推薦があった者のうちから選任されており、議会が主体的に関わっていて、大正期では、県・市町村議員の普通選挙が始まり、市長は市会による選挙で選任されていました。戦後現在の形になりましたが、講師の方は、議会という組織としての考えに対し、市長という個の考えと言う事を鑑みると、戦前の様に議会から市長が選任される制度が本来の二元代表制として良いのではと話され、国では議院内閣制として議員の中から内閣総理大臣を選出しており、地方では大統領制度のように市民から直接選挙で選ばれている事を考えると、地方自治体においても一考の価値はあるのではないかと考えました。

昨年行政視察をした会津若松市議会の取り組みについて、今回の研修の中でも話を伺うことができ、改めて議会活動の取り組みや議会としての改革の必要性を強く感じました。